

第 10 分科会「リハビリテーションの現場で求められるもの」

問題提起

皆さんの現場で、日々大切にしていることは何ですか？

診療報酬・介護報酬改定を重ねるごとに、患者、利用者、医療を取り巻く環境は急激に変化しています。2016 年診療報酬改定で回復期リハビリテーション病棟に成果主義が導入されます。ADL の回復が見込みにくい患者が回復期リハビリテーション病棟に入ることができない状況も発生しかねません。リハビリテーション分野では、地域包括ケアの仕組みづくりが各地域で作られる中、患者、利用者の人権、受療権を守る取り組みが必要となります。

障がい者を取り巻く福祉制度も近年めまぐるしい改変を重ねてきました。障がい年金受給の労働者に関する調査が 2014 年 12 月に行われました。障がい年金を受給しながら就業している人は 27.6%で、そのうち就業による収入が年 200 万円未満という人が 81.1%を占め、50 万円未満に限っても 47.5%に上りました。就業や仕事の継続を理由に障がい年金を打ち切られたり減らされたりするケースが相次いでいますが、労働収入だけでは生活できない人が多いことが浮き彫りとなりました。障がい者の置かれている現実は非常に厳しいといえます。

また私たちの労働環境も変化してきています。厳しい経営環境の中で成果主義、収入増の数値目標が追及されてきています。労働条件がきつくなつてはいませんか？リハビリテーション分野における「労働環境」に関する実態については十分把握されていないのが現状です。昨年の医療研分科会では、労働基準法の学習、参加者の労働実態アンケートも行い、労働環境についても意見交換しました。ぜひ全国の状況を共有し、働きやすい職場を作っていきましょう。

地域包括ケアが推進される中、職種間・地域の中での連携は大切な課題です。私たちの仕事は、患者・利用者によりよい治療を提供することと同時に、障害を持った方々や高齢者を取り巻く環境に対するアプローチも大切になります。その方に関わる人たちに対する情報提供や助言、具体的な方法伝達や指導、適切な関わり方ができるような働きかけなどの他職種との情報交換、それらが継続していくための仕組み作りなど、直接的には診療・介護報酬アップにつながらないけれども大切なことがたくさんあります。更に患者、利用者としてだけでなく一人の住民として、その地域で住み続けるための地域への働きかけが必要となります。この分科会で、それぞれの職種の実践や日頃感じていることなどレポートを持ち寄り、全国の仲間と問題を共有し討論して、明日からの力にしていきたいと思います。皆様のご参加をお待ちしています。

なお、レポートは期限までに提出して下さるようお願いいたします。レポートは症例報告でも構いませんが、その症例を通して、問題提起の内容について皆さんの考えを述べていただきたいと思います。また当日のプレゼンテーションで動画の使用はできません。動

画使用の場合はご自身のパソコンをお持ちいただけるようお願いいたします。